

ドンと衝撃 不安散乱

松本で震度5強

松本の市街地を、突き上げるような揺れが襲った。30日朝、県中部で起きた地震で松本市では震度5強を観測、山形村など周辺地域も強い揺れに見舞われた。死者こそいなかったが、13人のけが人が出た。屋根瓦の落下など建物にも多くの被害が出た。松本は大きな活断層が走り、大地震も想定される。専門家は今後の余震への注意と防災対策の必要性を訴える。

登校の女兒ら

13人が重軽傷

松本市の災害対策本部などのまとめでは、30日夕現在、並柳小2年の女兒(7)が登校途中に倒れたブロック塀の破片で足首の骨が折れたほか、倒れた給湯器の下敷きになって胸の骨が折

れた疑いのある男性(38)ら13人が重軽傷を負った。命に別条のある人はいなかった。

余震への不安を感じる市民もいたことから、市は南部地区の4公民館に避難所を開設し、市職員が対応に当たった。

建物の被害は、市中心部や南部にかけて発生。外壁や天井、屋根瓦の落下、ブロック塀の倒壊など、被害が相次いだ。雨漏りを防ぐため、市はブルーシート6200枚を用意し、被害を受けた世帯に配布した。

市内の小中学校のうち16校では、校舎や体育館の壁にひびが入り、外壁の一部が落ちた。校庭の地割れも

「こんな揺れ初めて」

3校で発生。校内の給水施設が損傷した開明小は1日

を臨時休校と決めた。また、国宝・松本城の「乾小天守」の壁など16カ所ほどにひびが入ったほか、松本城近くにある国の重要文化財・旧開智学校でもしつこい壁などに無数のひびが見つかった。

屋根瓦崩落「えー！」 続く余震「避難所で」

屋根瓦が落ちた。「見つけた瞬間、ショックで『えー！』と叫んでしまった。頭に当たっていたらと思うとぞっとします」。震源地に近い松本市並柳1丁目、車で出かけようとした有賀美代子さん(57)は、発生直後の様子を語った。

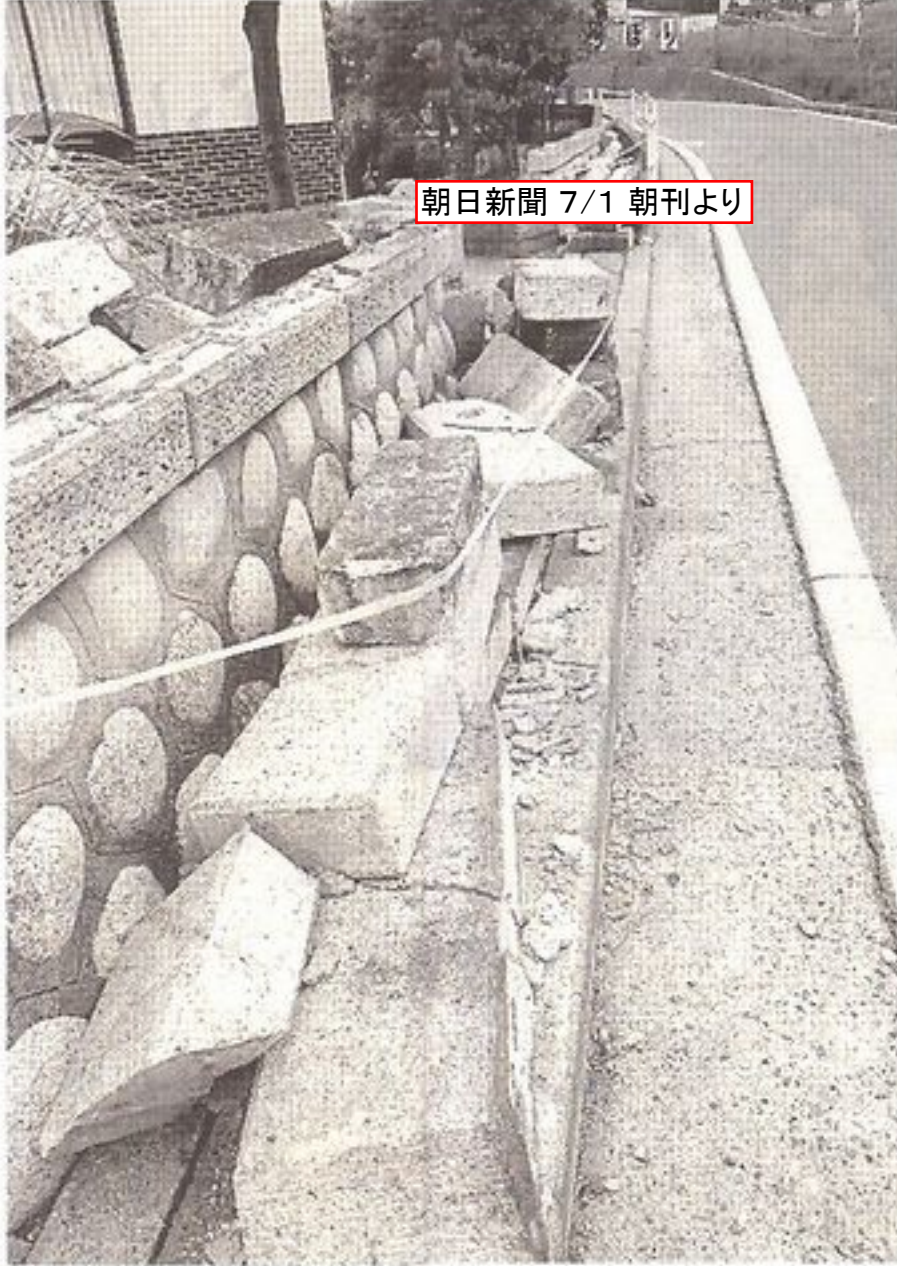
高さ約1メートルのブロック塀がくずれ、歩道をふさいだ。山岸節子さん(65)は「ちょうど朝食を食べ終えた時だった。怖かった。食器棚や仏壇も倒れた。こんな強い地震は経験したことがないのでびっくり」。長野市で働いていた女性(23)は仕事を切り上げ、急いで並柳

1丁目の実家に帰ってきた。先祖の眠る近くの墓で、墓石が軒並み倒れている様子を見てほうぜんとした。被害は、震源地の西に広がる島立の住宅街にも及んだ。佐藤巧江さん(74)宅では屋根瓦が崩れ、玄関の前を埋めた。「ドンと突き上げたあと、南北に強く揺れた。けがをしなかったのが何よりです」と話した。

市中心部の中央2丁目の「ヤマダドレス」では2、3階の外壁のガラスブロックが割れ、歩道に飛散した。ひびが入った1階ショーウィンドーのガラスの前で、男性従業員は「今日は休みます」。

松本市では29日夜から弱い揺れが続いていた。中心部の住宅で暮らす女性は、足の踏み場もなく散らばった台所を片付けながら、「昨夜の地震で、食器棚のガラスに粘着テープをはるなどの対策を考え始めた矢先だったのに」。余震が続く中で、「これでは落ち着いて後片づけもできません」と不安な表情をみせた。

朝日新聞 7/1 朝刊より



崩れたブロック塀で、登校中の小学生がけがをした＝松本市並柳4丁目



多賀神社では、約1メートルの石柱がいくつも倒れた＝松本市出川町

市が設けた避難所に身を寄せる人もいた。4歳の長男と南部体育館に避難した大黒伊久子さん(36)は、前夜の地震で玄関前に水や非常食などを一式を入れた袋を用意していたという。「余震の不安もあり、一晩だけでも避難所で多くの人と過ごしたい」と話した。(田中正一、佐藤美千代、浅野有美、成田太昭)

松本で震度5強

M5.4 13人が重軽傷

30日午前8時16分、県中部を震源とする強い地震があり、松本市丸の内にて震度5強、同市沢村で震度5弱を観測した。松本広域消防局のまとめによると、小学2年生女児(7)が崩れたブロック塀に当たり足を折るなど、骨折や打撲などで計13人が重軽傷を負った。市によると、建物被害は計454件。国宝松本城も天守の内壁計16カ所がひび割れ、国重要文化財の旧開智学校の壁にもひびが入った。

松本城内壁にひび

長野地方気象台によると、震源の深さは4キロ、地震の規模を示すマグニチュード(M)は5.4と推定される。震度は5弱は1998(平成10)年8月に発生しているが、気象庁に記録が残る1926年以降、同市付近で震度5強を観測したのは初めて。同市美須々と東筑摩郡山形村でも震度4を観測した。

松本市の中心市街地では3



信毎 7/1 朝刊より

県中部を中心とした地震で壁やガラスが崩れた建物。30日午前11時50分、松本市中央

本強 松震度5

工場操業停止や予約解除
隆起や亀裂 傷痕生々しく
安否確認や耐震化課題

6
32
33
34
35

階建てビル1棟の壁が損壊、落下したほか、市の中央から南部の広い範囲で屋根瓦の落下、ブロック塀の倒壊、壁の亀裂といった被害が出た。市

(7)は通学途中、倒れてきたブロック塀が当たり、右足甲の骨を折った。市は揺れが大きかった地区の公民館や体育館計4カ所に避難所を設置。30日午後10時45分時点で22世帯の62人が利用した。

県内の震度(30日午前8時16分)



県内各地の震度

30日午前8時16分の地震で、県内で震度2以上を観測した地点。

- 【震度5強】松本市丸の内
- 【震度5弱】松本市沢村
- 【震度4】松本市美須々、東筑摩郡山形村役場
- 【震度3】北安曇郡池田町池田、松本市安曇、同市会田、同市梓川梓、同市波田、岡谷市幸町、諏訪市湖岸通り、同市高島、茅野市葛井公園、塩尻市広丘高出、諏訪郡下諏訪町役場、安曇野市穂高総合支所、同市穂高福祉センター、同市明科、同市豊科、同市三郷、同市堀金
- 【震度2】長野市大岡、大町市役所、同市大町図書館、同市八坂、北安曇郡松川村役場、埴科郡坂城町坂城、上水内郡小川村高府、千曲市杭瀬下、上田市大手、同市役所、同市上武石、塩尻市榑川保育園、佐久市白田、同市中込、同市甲、同市望月、北佐久郡御代田町御代田、同郡立科町芦田、小県郡青木村田沢青木、同郡長和町古町、同町和田、東御市大日向、東筑摩郡麻績村麻、同郡朝日村小野沢、同郡筑北村坂井、同村西条、同村坂北、伊那市高遠町荊口、上伊那郡辰野町中央、同郡箕輪町中箕輪、同郡飯島町飯島、同郡南箕輪村役場、下伊那郡高森町下市田、木曾郡木曾町開田高原西野

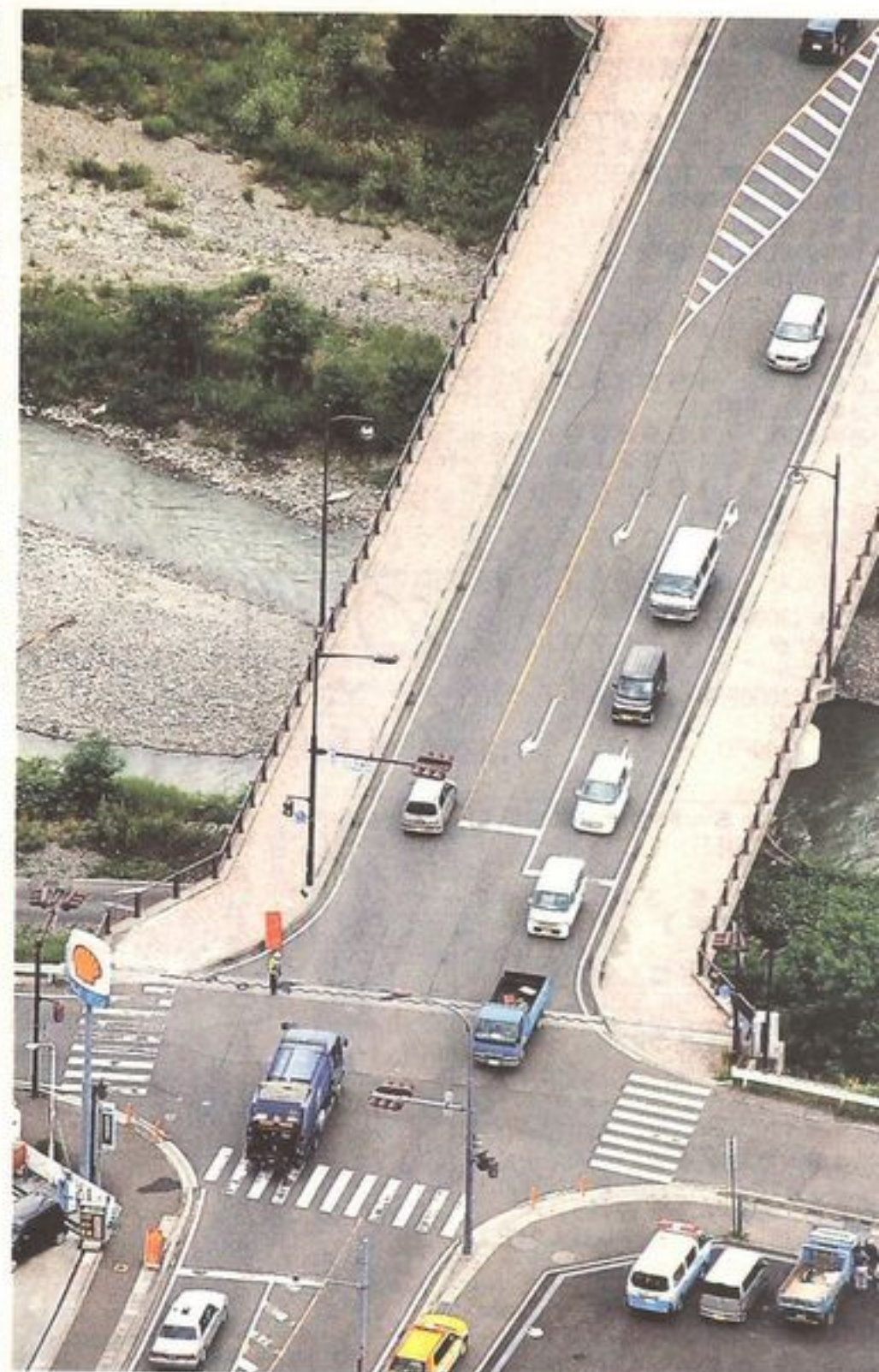
隆起と亀裂 街を走る

信毎 7/1 朝刊より



浮き上がる歩道

地震の影響で隆起した歩道＝30日午前10時半、松本市の伊勢町通り



ほとんど落下

約6万冊の図書のひとつが棚から落下した松本市芳野の市南部図書館＝30日午前10時40分



橋に隙間 一時通れず

地震のため、交差する道路とのつなぎ目に隙間ができた子橋。発生後間もなく、歩行者も自動車も通行止めに(写真下)＝30日午前9時33分。その後、通行できるようになり、警備員がドライバーに注意を促していた(写真上)＝午前11時55分、松本市笹賀



周囲に巡らした玉垣が倒壊した多賀神社＝30日午前10時37分、松本市出川町

松本の傷痕 生々しく

朝の松本市を襲った30日の地震。震度5強の揺れが市中心部と南部で建物の一部を倒壊させ、建物内部にも被害を及ぼした。同市には近い将来、直下型大地震の発生が予測されている牛伏寺断層が走っている。今回の地震と断層の関係ははっきりしないが、大きな揺れに市民は一樣に不安を募らせた。

市中心部 震度5強

中央の婦人服店「ヤマダトレス ギャラリー」では、3階建ての店舗兼住宅の2、3階部分からガラスブロックが崩れ、歩道に散乱した。建

物内にいた住人と店の従業員の計3人は無事だったが、住人の70代女性は「こんなに大きな地震が来るとは…」と驚いていた。

1889（明治22）年建築で国登録有形文化財の旧山崎歯科医院（丸の内）も瓦の一部が落ち、内部の壁にひびが入った。所有する歯科医の山崎一郎さん（46）は「かつて経験したことがない大きさ」。中町で陶器などを販売する

「のまど」では、棚から陶器など50点余が床に落ちてほとんどが割れた。スタッフの清水晶代さん（48）は「数十万円のものもあるんです」と嘆いていた。

出川町の多賀神社では、周囲の石の玉垣が倒れた。氏子総代会長の山口尚男さん（79）は「9月の祭りに向けて準備を始めようとしたところだった。力を合わせて直していかないと」と話していた。

高宮東の15階建てマンションの10階に住む主婦北沢けさえさん（70）は、棚から落ちたガラス製の花瓶で手の甲を切った。「すごく怖くてドキドキが止まらない」。笹賀の製氷会社で、落ちてきた氷入りの段ボール箱で頭と右肩を打った男性従業員68は「目まがいした、地震が続いて心配」と話した。



倒壊 ブロックの列

地震の影響で崩れ落ちたブロック塀
=30日午前11時、松本市寿小赤



信毎 7/1 朝刊より

立体駐車場から落下した車=30日午前10時、松本市大手2



国史にひび

ひびが入った国宝松本城乾小天守の内部=30日午前10時37分



旧開智学校も 壁にひびが入った国重要文化財の旧開智



スーパーの駐車場に避難し、安否を確認したり抱き合う人々=30日午前8時50分、松本市並柳

城下町耐震化遅れ

景観と安全両立急務

30日朝の地震で被害を受けた松本市街地は、小規模な店舗が密集する。区画整理で新しい建物が多い伊勢町などに比べ、中町通りなど古い街並みを生かした商店街で被害が目立った。こうした商店街には、震度5強程度ではほとんど損傷しない想定で、「新耐震基準」が導入された1981（昭和56）年以前の建物も多い。さらに大きな地震に備えるには耐震化を急ぐ必要がある。

中町商店街振興組合理事長 佐々木一郎さん(55)が経営する漆器店は築120年以上。地震で壁にひびが入り、建物全体が左に傾いた。中町通りは、明治期に防火街並み整備を進めてきた。他にも築100年以上の店舗は少なくなく、佐々木さんは地震を受け、「耐震化については組合全体で話し合いが必要」と感じたという。

ただ、店舗の耐震補強工事への補助制度はない。県の補助制度は原則、新耐震基準の適用以前に着工した木造住宅完了したが、清沢さんの側は遅れている。30日は建物への



松本市で震度5強を観測した地震で、屋根の瓦が崩れた住宅＝30日午前11時55分、松本市の二子橋近く

古い街並み被害大

30日朝に震度5強の揺れを観測した松本市。ヘリコプターで上空から見ると、中心市街地では商業ビルの外壁が崩れているのが確認でき、揺れの強さを実感させた。市南部や東の山麓にある集落でも、住宅の屋根瓦が落ちていた。国宝松本城やJR松本駅の周辺では、複数の住宅の瓦が落ち、外壁が崩れた同市中央の商業ビルの様子も上空からも分かった。松本城や駅舎は、外見からは変わった様子はうかがえなかった。

一時通行止めになった県道の二子橋周辺では10棟近くの住宅の瓦が落ち、被害の多さが目立った。ブルーシートを屋根にかぶせ、補修を進める人もいた。同市東部の山あいにある中山でも複数の住宅で瓦が落ち、ソーラーパネルの上に飛び散っているところもあった。(半田 茂久)

被害はなかったが「大地震が来たら危ない」と分かっていても改修に何百万円も出せない。緊急地震速報は検知の46秒後に

市建築指導課は「補助が出る住宅などでも耐震補強工事は市全体で年間20〜30件程度にとどまっている」とする。

今回は、震源から遠くても地盤が弱い松本市街地で建物に被害が出た。構造設計が専門の県建築士事務所協会の新井典夫会長(松本市)は「木造に限らず81年以前の建物は耐震診断が必要。自費でも受けた方がいい」と訴えている。佐々木さんは「古いから建て直せばいい」という問題では

揺れの強さも「まぎまぎ」ヘリで確認

「牛伏寺」近く未知の断層か

6月29日夜以降、松本などで続く一連の地震について、マグニチュード(M)4程度の地震も10年に1度は発生。過去の地震では1週間〜10日間ほど続くと推測している。

地震変動が専門の角野由夫理学部教授(62)は「今回の地震は松本盆地の通常の活動の一環」と指摘する。松本盆地の中央部一帯では、震源が深さ5〜10キロと比較的浅い地

同調査事務局の鈴木良典・文部科学省地震・防災研究課長は「牛伏寺断層が動けば規模はもっと大きいはず。今回は比較的小さな断層が動いた可能性が高い」と指摘。加えて「牛伏寺断層の地震はいつ起きてもおかしくない。引き続き備えを進めてほしい」としている。

「あずさ」や「しなの」の「しなの」の各特急は一時一時運転を見合わせ、同日正午に再開した。篠ノ井線塩尻〜田中間で松本電鉄(松本市)全線も一時運転を見合わせた。飯田線にも運休や遅れが出た。



された場合に発表。同庁外郭団体の財団法人気象業務支援センターを通じて、テレビ局や携帯電話会社に配信している。

同庁によると、30日の地震で最初に地震波を検知したのは午前8時16分42.0秒。同17分28.8秒の時点で、長野県中部で震度4から5弱程度が予想されたため、速報を発表

松本の基準引き下げ 気象庁 気象庁は30日、松本市で震度5強を観測した地震の発生を受け、同市(乗鞍上高地地

域を除く)の大雨警報・注意報の発表基準を当面、引き下げると発表した。地震で地盤が緩み、雨による土砂災害の危険性が通常より高いとみられることから、警報、注意報を出す雨量の基準を通常の8割に引き下げる。土砂崩れなどの危険性が高まった時に出す「土砂災害警戒情報」の発表基準も引き下げる。

また、NTT東日本長野支店によると、松本市南松本にある機器の故障で約100回線が一時不通となった。

また、NTT東日本長野支店によると、松本市南松本にある機器の故障で約100回線が一時不通となった。

高齢者 不安の避難

松本震度5強

安否確認に課題残す

町会長・民生委員手回らず

観測史上初の震度5強の揺れに見舞われた30日の松本市。災害時に支援が必要な高齢者や障害者の「要援護者」を登録し、民生委員や町会長が安否確認する制度があり、安否を確認し合った住民も多かった。ただ、高齢者が多い郊外のベッドタウン、空洞化が進む中心市街地の商業地区では、連絡体制や避難の在り方に不安も残した。一部地区では建物の耐震化が進まない実情もあり、地震は城下町の風情と住民の安全をどう保つか課題も突き付けた。

【1面参照】



棚や商品が倒れた仏壇店内＝30日午前10時50分、松本市大手2

30日朝の地震による主な被害

(松本市対策本部、松本広域消防局、県、県警などのまとめ。30日午後9時現在)

- けが人** 重傷1人、軽傷12人
- 建物** 市街地から南部にかけて住宅・店舗の一部損壊199件、瓦の落下・塀の倒壊255件、小中学校の損壊16件、松本署高宮交番のガラス破損、まつもと市民芸術館のホール天井の一部が落下、中央1のホテルがゆがみ、安が安室に一時閉鎖された
- 水道** 県営笹部団地で水道管にさびが詰まり29戸断水、給水管の破損による漏水10戸、深志、大手、庄内地区で水道水の濁り
- 1日の休園・休校予定** 幼稚園9、開明小、県立高6、特別支援学校3、私立高校1
- その他** 並柳小校庭が液状化、小中学校校庭の地割れ3件、中山、並柳、蟻ヶ崎の3霊園で墓石や灯籠約550基倒壊、家庭用灯油タンクの転倒による灯油流出11件(4件が河川へ)

松本市郊外の寿台地区は、65歳以上の割合(高齢化率)が29・6%。集合住宅で一人暮らしの赤羽郁子さん(87)は30日朝、未経験の強い揺れに慌てた。数分後、近くの胡桃沢寿美さん(65)が「大丈夫かい」と顔を出した。足が悪く、1人では避難できない赤羽さんは「怖かったなあ」と胸をなで下ろした。

2人が暮らす寿台8丁目の隣組は、全13軒のうち9軒が独居高齢者。他より高齢化が進んだこの隣組は「自主的に支え合っている」と胡桃沢さん。

避難所4カ所に62人

松本市は30日夕までに、自主的に避難する人向けに公民館や体育館計4カ所を避難所として開放した。市のまとめでは30日午後10時45分現在、計22世帯の62人が身を寄せている。

芳野の市南部体育館には、一人暮らしの高齢者や小学生のいる家族らがそれぞれ水や食料などを持って避難した。近くの市営住宅の女性は、夕方から水が出なくなり、トイレも使えなくなったという。「小学生の娘2人が怖がって家に帰りたいと言っている」と困惑。渚3から避難した野口すみさん(70)は「家が古く揺れがひどく、食器棚から茶わんが落ちた。怖くていられない」と話した。

寿公民館では午後8時20分ごろ、会社員中村紀彦さん(42)＝寿中Ⅱが同居の母佳子さん(77)を自主避難させた。「寝室が1階と2階。何かあっても避難所なら安心」と紀彦さん。地震時、家で1人だった佳子さんは「ほかの人がいると少しは安心だけど、眠れないかも…」と不安げに話した。

庄内地区公民館には6世帯、21人が避難。ブラジル人帯、海外出身の人が多くという。市職員によると、一時通訳ボランティアを通じて避難所について説明した。菅谷昭市長も避難所を訪問し「何かあれば言ってください」と声を掛けた。市は災害用備蓄毛布や非常食を用意し、保健師が体調管理。今後の受け入れについては状況に応じて判断する。

馬場 当氏(ばば・まさる) 脚本家) 29日午後10時57分、悪性リンパ腫のため横浜市立病院で死去、84歳。東京都出身。自宅は横浜市鶴見区鶴見中央5の5。葬儀・告別式は4日午前9時半から横浜市鶴見区鶴見中央2の9の20、鶴見ほうさい殿。喪主は妻陽子(ようこ)さん。「復讐するは我にあり」で、日本アカデミー賞最優秀脚本賞

瓦や壁 崩れ落ちた

信毎 7/1 朝刊より

松本震度5強

校庭避難の児童不安げ

生活直撃 途方に暮れる市民

松本市で30日朝、震度5強を記録した強い地震は、市民の生活を直撃した。小学校では登校した児童らが校庭に避難。屋根瓦が崩落した民家が多く、商店街では天井やガラス、商品が落ちて散乱。続発する余震におびえながら、片付け作業に追われた。

【1面参照】

松本市筑摩小学校では強い揺れを感じ、「緊急放送、机の下に入ってください」と校内放送。教室にいた児童たちは赤白帽をかぶって校庭に整列し、「怖い…」と不安そうに顔を見合わせた。6年生の嶋田魁星君(11)は「驚いて転んだ友達もいた。怖かった」と話していた。

松本駅は、ホームに亀裂が入り、自由通路の天井がゆがんだため一時閉鎖。駅前広場は、避難した駅利用者らが集まり、運転再開を待った。

古い街並みの残る中町通り。古美術店では骨董品が散乱し、50万円ほどするつぼや高価な皿が割れた。店主の樋口光治さん(63)は「地震保険

に入っているが、電話したら商品は補償の対象外と言われた。商品が片っ端からやられてしまった」と切なそうだった。

市南部の大型スーパーは消

シヨールームにいた女性社員(29)は「パーンとガラスがはじけ、怖くて近くにいた人を抱き合せて受付カウンターの下に入った」と震えるような声で言った。

火用スプリンクラーにひびが入り、1、2階が水浸しに。商品への被害は少なかつたというが、点検や補修作業に追われた。「1時間ぐらい水が止まらなかった」と同店担当者。30日の営業は見合わせた。

南松本の窪田昇さん(76)宅は屋根の瓦が割れ、壁にひびが入った。午前中に電話し、夕方に入工が来た。窪田さんの妻は「雨が心配で応急処置をしてもらった」。大工の男性(47)は「今日3軒目。今も飛び込みで電話が入ったが、今日はもう受けられない。余震に備えて浮いている瓦を外すのと、シートで雨をしのごく処置をしている」と話していた。

平田東では、数軒が連なる店舗2階の壁が約10センチ割れ落ち、はこん店と建築会社事務所の入り口をふさいだ。建築会社の女性経営者(49)は「外に出てしばらく後に地震が来て、壁が崩れた。明日までには壁を直したい」。

松本市寿北の住宅では高さ1・5メートルのブロック塀が長さ約10メートルにわたって倒壊し、駐車していた車がへこんだほか、傷が付いた。この家に住む自営業の男性(52)は「2階は本棚が倒れてガラスが割れてめっちゃくちゃ。壁にひびも入っている。金額的なことを考えると途方に暮れる」と困惑の表情を浮かべた。



崩れ落ちた屋根瓦を片付ける人たち―30日午前9時、松本市並柳



屋根瓦が崩れた民家があちこちで見られた―30日午前10時50分、松本市寿豊丘

深志3の深志神社では、境内施設の天井が落ちたり、灯笼が崩れたりした。権瀬宜の清水正晴さん(48)は「結婚披露宴などの予定もあり、急いで復旧したい」と話した。

高宮北の松本日産自動車本社はシヨールームのガラスが割れ、床にひびが入った。